

まちづくり懇談会 結果

日時：令和元年6月26日（水）
午後6時30分～8時30分
会場：コミセン第2会議室

～テーマ「防災・生活環境」「人づくり・地域づくり」～

Cグループ（事務局：前半：小林、後半：鎌田）

【前半】

○参加者 7名

○懇談内容

- ・ 広尾のごみの分別は細かくて厳しいと感じた。
- ・ ごみの分別ができていない。子どものうちからごみの出し方を教えるのもいいのではないか。役場の出前授業で教えるのも良いのでは。
- ・ 大地震が来るという予測もあり、日ごろから備えることが大切だと思う。昨年の停電の後、カセットガスで動くストーブを買った。
- ・ 2～3年前から家で備蓄をしていて、町の避難訓練の際は持っていくようにしている。ただ、他の人でそういったことをしている人が少ないと感じている。
- ・ 旧広尾小学校グラウンドが緊急避難場所になっているが、冬はどうしたらよいのか。
- ・ 国道の草がきちんと管理できておらず危ないところ（シーサイドに行く曲り口等）がある。見た目も悪い。もし管理できないなら埋めてしまえばいいのでは。
- ・ レストハウスも壊してほしい。
- ・ 少子高齢化と言われていて、高齢化が悪い言葉のように感じてしまうが決して悪いことではないと思う。高齢者が増えていくという現実の中で、自分たちで10年後どう生きていくのか考えるのが大事。たとえば、ひろお未来塾の活動を支えていく、学校に協力するなど、高齢者が行政に頼らず生きがいを見つけていくことが必要になるのではないか。そういった活動の場づくりが民間主導であるといい。
- ・ 今後、車を運転できなくなったらバスを利用するしかない。しかし、病院に行くバスはあるが、買い物とかに行くための交通手段がない。十勝バスも路線バスとして運行しているが、浜にまでは来ない。
- ・ バスの問題は、これからしっかり考えていく必要がある。
- ・ 自転車に乗っている高齢者が運転中こわい。
- ・ バス待合所の営業時間が変わってしまい、すごく不便になった。

【後半】

○参加者 7名

○懇談内容

- ・ボランティアの担い手が高齢化している。もっと若い人が入ってほしい。役場職員ももっとボランティア活動に参加するべきだ。
- ・何でも「町民」、「ボランティア」に頼る傾向があると感じる。もっと職員はがんばるべきだ。
- ・ふるさと納税の返礼品でお墓の見守りサービスがあることを初めて知った。もっとPRするべきでは。
- ・町内会の入り方がわからなかったので入っていない。転入手続きの際に教えてくれるなど、きっかけがあつたら入っていたかもしれない。転入手続きの際に説明を試みたらどうか。
- ・免許を返納すると買物等が不便になる。町内をくまなく回るコミュニティバスがあれば便利だと思う。
- ・つつじまつりで広尾小学校と会場を結ぶバスが出るようになって便利になったが、乗降場と駐車場まで距離があるので、何か改善等できないか。また、そういったことに関する周知が足りないと感じる。防災無線でも聞き逃すことがあるので、もっと頻繁に流すべきだ。
- ・介護保険のヘルパーさんを利用している人は、ヘルパーさんに頼ることが多くなって、周りの人との関係が希薄になってきていると個人的に感じる。
- ・自主防災組織は必要なものだと思う。だけどどうやって組織を作るかがよくわからない。組織がなくても、町内会で隣近所を見守ることができていればよいのだが。